

原著

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)と診断された若年女性の思い

前北海道大学大学院保健科学院

山本 千尋

医療法人社団カワカミウイメンズクリニック

伊藤 由美

和歌山県立医科大学

藤田和佳子

北海道大学大学院保健科学院

大川 加奈 仲谷 紗稀

北海道大学大学院保健科学研究院

佐川 正

抄録

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)と診断された若年女性が自分自身の症状と現在の治療に抱いている思いを、明らかにすることを目的とした。18歳以上35歳未満の患者10名に半構造化面接を行い、Giorgiの現象学的アプローチによる分析を通して4カテゴリー【自分自身の外見を後ろめたく思う】【妊娠・出産できるような体になりたい】【治療に対する思い】【先行きの見えない将来に対する不安】を抽出した。

PCOSをもつ若年女性の思いは、女性のライフサイクルと共に変化し、思春期には多毛や肥満によって自己肯定感が低下していた。青年期には将来の結婚を意識し始め、《自然に月経が来てほしい》と思うようになっていた。成人期には、未婚・既婚による違いがあり、不妊治療における《頑張っても子どもができない時のショック》が非常に大きく、《精神面でのストレスが身体症状に現れやすい》と認識していた。

PCOSをもつ若年女性のケアには、身体的および心理的側面からのアプローチが重要であり、医療従事者による丁寧な説明とその時々気持ちに寄り添った声かけの必要性が示唆された。

キーワード：多嚢胞性卵巣症候群、若年女性、心理、月経異常、肥満

I. 緒言

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS: polycystic ovarian syndrome)をもつ女性は、世界中の女性人口の3.42%にあたる1億1600万人と推定されている¹⁾。日本では、生殖年齢女性の5~8%に認められ²⁾、婦人科の日常診療において比較的遭遇しやすい疾患となっている。日本人女性の

PCOSの臨床症状としては、92.1%で月経異常を認め、不妊症の原因の10%以上を占める。また、23.2%で多毛や痤瘡(ニキビ)などの男性化徴候、20.0%で肥満徴候を呈す³⁾ことが明らかであり、特に若年女性の苦痛となりやすい症状を有する。

PCOSの原因は単一ではなく、視床下部-下垂体、卵巣、副腎皮質の機能異常やインスリン